

<http://x68000.q-e-d.net/~68user/unix/pickup?dd>

## 例

### ディスクコピー

```
dd if=/dev/hda of=/dev/hdb bs=32M
```

hda がコピー元

hdb がコピー先

bs のサイズは環境に合わせる。省略しても動くけど、遅いことがある

コピー先は、コピー元以上のサイズでなければならない。

(FAT32、ext3 などのファイルシステムに左右されない)

lzop で圧縮してバックアップ、リストア

<http://blog.dc-d.jp/?p=600>

バックアップ

```
dd if=/dev/sda | lzop -c > /mnt/sdc1/sda.img.lzo
```

リストア

```
lzop -dc < /mnt/sdc1/sda.img.lzo | dd of=/dev/sda
```

gzip で圧縮してバックアップ、リストア

圧縮率は lzop より高いが、速度が遅い。

バックアップ

```
dd if=/dev/sda | gzip -c > /mnt/sdc1/sda.img.gz
```

リストア

```
gzip -dc < /mnt/sdc1/sda.img.gz | dd of=/dev/sda
```

ファイル作成

```
dd if=/dev/zero of=/swapfile bs=1M count=1024
dd if=/dev/zero of=50mb bs=1M count=50
```

とりあえず、bs は困ったら 1M くらいが無難。

MBR バックアップ

```
dd if=/dev/hda of=$backdata/mbr.img bs=512 count=1
```

MBR リストア

```
dd if=mbr.img of=/dev/hda bs=446 count=1
```

## 途中経過を表示する

```
kill -USR1 プロセス番号
```

で、ddの途中経過を表示できる

## 主要オプション一覧

--	--
if=[ ファイル ]	入力ファイル(デバイス)。指定しないと標準入力。
of=[ ファイル ]	出力ファイル(デバイス)。指定しないと標準出力。
bs=[ サイズ ]	入出力のブロックサイズを指定。ibs と obs の両方に同じ値をセットする場合に使用する。
ibs=[ サイズ ]	入力のブロックサイズを指定
obs=[ サイズ ]	出力のブロックサイズを指定
count=[ ブロック数 ]	コピーするブロック数を指定
conv= 変換オプション	変換オプションを指定(後述)。conv=hoge,fugaなどと複数指定も可能。
seek=[ ブロック数 ]	出力の開始位置を指定されたブロックに移動してからコピーする
oseek=[ ブロック数 ]	FreeBSD では seek と同じ。Solaris では違うっぽい...?
skip=[ ブロック数 ]	入力の開始位置を指定されたブロックに移動してからコピーする
iseek=[ ブロック数 ]	FreeBSD では skip と同じ。Solaris では skip より速いと書いてある...?

サイズには数字のほか、k・m・gなどの単位を指定できる(ブロック数にも使えるけど混乱するかも)。

--	--
bs=1	1 バイト
bs=1b	512 バイト (b はバイトではなくブロック)
bs=1k	1KB
bs=1m	1MB
bs=1g	1GB